

平成26年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

				整理番号	6 - 1 - 24
事務事業名	ミリカホール管理運営事業			担当課係	健康増進課 保健センター 管理係
総合計画上の位置付け	大項目	5. 「日（いとなみ）が輝く」		記入担当者	
	中項目	①伝統・文化の継承・発展とスポーツの振興		内線等	
	小項目	2. 市民文化と芸術の振興		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	4 衛生費	項	1 保健衛生費	
	目	6 ミリカホール費	事業	2. 臨時職員等賃金 3. 施設管理運営費	
開始年度	平成 11	年度	根拠法令・要綱等	小松島市多目的ホール条例	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 小松島市の全市民を対象に、ミリカホールの健全な運営を実現させるため。
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) ホールを訪れる人が、心地よく、満足していただけるような施設づくりを目指し、ホールをより魅力的に、より安全に、より快適なものとする。
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) ホールのあるべき姿を小松島市多目的ホール運営委員会と協議し、その実現に向けて施設・整備の維持管理に努める。定期保守点検を実施し、事故防止に努め、安全で快適な環境を整えていく。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 平成11年の開館以来、市民の文化活動の中核となる施設として運営している。ホール運営は専門的知識も必要であり、その分野の有識者で組織されたホール運営委員会を年1回開催している。また、施設・設備は築16年を経過し、至るところで補修を要する状況になっているため、必要性・緊急性を見極め、優先順位の高いものから計画的に改修を行っている。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明				指標化できない成果
	施設利用日数			自主事業・貸館事業での利用日数				
	単位	H25	H26	H27	H28	将来目標 (年度：平成)		
日	目標	270	268			開館日数-保守点検日	<ul style="list-style-type: none"> 設備の安全性 ホールの快適性、信頼性 利用者満足度 	
	実績	177	155					
	達成度	65.6%	57.8%					
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H25	H26	H27	H28	指標の説明	
	ミリカホール使用料収入	円	計画	3,684,000	3,807,000			貸館による使用料収入 計画は当初予算額、実績は決算額による
			実績	4,453,599	3,446,672			
	貸館事業実績延べ利用日数	日	計画	284	284			貸館事業での利用日数
			実績	154	133			
				計画				
			実績					
			計画					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位：円)

全体コスト(円)	関連事業費	25年度決算		26年度決算		27年度決算		26年度予算		
		A	B	A	B	A	B	A	B	
A	財源内訳	直接事業費		19,213,212		18,076,469		0		18,148,000
		国県支出金								
		地方債								
		利用者負担		4,453,599		3,446,672				
		一般財源		14,759,613		14,629,797				
		B	人件費 ①×②		3,230,603		5,855,785		0	
B	職員平均人件費① 従事した割合②人		6,461,205		7,319,731					
			0.50		0.80					
		A + B		22,443,815		23,932,254		0		
単位コスト	活動指標の説明	全体コスト/開館日数 (307日)			全体コスト/開館日数 (306日)				備考	
		活動指標1単位当たりコスト		73,107		78,210			平成25年4月1日現在 人口40,733人	
		市民一人あたりのコスト		551		593			平成26年4月1日現在 人口40,333人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) ホール運営については、建物・設備の維持管理費に多額の費用を要するため、全国的に非常に厳しい状況が続いている。今後もこの状況は変わらないと考えられるため、収支を正確に把握し、計画性のある健全な運営を実施することが重要である。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) ホールの平時の運営は適切に行われている。ミリカホールは築16年を経過し設備のメンテナンスおよび交換を求める声がある。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	ミリカホールは様々な催し物や文化活動に利用されており、市の施設として利用価値が高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	建物・設備の管理については、保健センターとの複合施設であることから、経済性・効率性の面で、市で一括して行うことが妥当である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	ミリカホール運営に係る事業費の大きな割合を占める保守点検等の委託業務については、3年間の長期契約により委託料の削減に努めており、光熱水費やその他の経費についても、削減に努めている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	施設の修繕等については緊急性が高いものがあるが、運営委員会の開催、設備の保守点検等については途切れることなく継続していくことが重要である。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	利用率に関しては、土日祝日の利用率は約8割であり、高い水準を維持している。また1週間前からであったリハーサル室の利用申請を1か月前からに変更する等利用者の利便性の向上につながった。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	開館から16年経過し、施設・設備に老朽化・劣化が見られるようになってきている。今後、部品交換・オーバーホール・設備の更新等の維持管理に多額の費用が必要となってくることが考えられる。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		80点以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60～79点			
2		3 改善・効率化し継続	50～59点	評価点 66	2	施設・設備の維持管理に努め、事故・トラブルの発生を未然に防ぐことは、ホール運営管理者としての責務であり、ホールの安全性・快適性を確保していくためにも、今後も継続して実施していかなければならない。 また、ホール運営の適正化を図るため、ホール運営委員会の開催は必須であり、有識者の意見を汲み入れ、文化・芸術の振興に役立てていくことが重要である。
		4 見直しの上縮小する	40～49点			
		5 終期設定し終了	30～39点			
		6 休 止	20～29点			
		7 廃 止	19点以下			

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		判定説明
		2 現状のまま継続する	3 改善・効率化し継続	
2		4 見直しの上縮小する	5 終期設定し終了	ミリカホールは小松島市の芸術・文化の振興の拠点となるべき施設であり、直に音楽・芝居等に触れる機会が少なくなっている現在の状況を憂慮する中で、その役割は今後ますます重要なものになってくるであろうと考える。ホールの在るべき姿を有識者による審議機関で協議し、それを実現するために安全・快適なホール環境の整備を進めていくことが今後も重要である。
		6 休 止	7 廃 止	